



「まほろん夏まつり」の様子

7月31日(日)に実施した、まほろんイベント「まほろん夏まつり」は、やや雨模様の天候でしたが、まつりの進行に支障は出ず、「古代三種競技」(まほろんカップ)をメインイベントに、次のような体験メニューをご来館の皆様楽しんでいただきました。

「古代三種競技」は、「弓矢で射的」・「槍投げ」・「火おこしタイムトライアル」の3種類の体験を行って得点を競う競技です。午前中にたっぷり練習をつんだ29人のお客様が競技にエントリーしました。優勝の栄冠を勝ち取ったのは栗栖冬真君、準優勝が関拓仁君、3位が佐藤末奈美さんでした。協議終了後、菊池徹夫館長から「まほろんカップ」や表彰状・記念品が授与されました。

プロムナードギャラリーでは、「本物の土器や石器にさわってみよう」コーナーを設け、お客様に土器や石器に親んでいただきました。「古代のすり染め体験」はタデアイの生葉で染色を楽しむ体験です。「無料勾玉抽選会」も午前と午後に1回ずつ行い、当選されたお客様は、勾玉づくりを楽しんでいきました。「かき氷づくり体験」は、手動のかき氷機でお客様にかき氷を作って楽しんでいただきました。

初めての試みとして行われた「農産物直売コーナー」には、県立農業短期大学校・県立白河実業高校・県立修明高校の生徒や先生の皆様がそれぞれ生産物・加工品を持ち寄って参加しました。来館のお客様には大変好評でした。各校の皆様どうもありがとうございました。

「開館 10 周年記念館長講演会」の様子と今後の館長講演会の予定

「開館 10 周年記念館長講演会」は、今年 4 月に就任した菊地徹夫館長により、7 月 17 日（日）に『まほろんの 10 周年によせて』と題し行われました。

講演の前半は、今年 3 月の東日本大震災の事、藤本強前館長との事などを織り交ぜながら、まほろんの 10 年間の歩みをまほろん誕生から現在に至るまでの映像を見ながら解説されました。

後半は、①「まほろんの今、そして、これから」、②「歴史は知恵の森」あるいは「歴史は未知の森」、③「パンドラの箱に残ったもの」と題した館長自らの思いを込めた内容の講演を行いました。

①では、近年、埋蔵文化財の保存・活用が叫ばれているが、その中でも、まほろんが先駆的役割を担い、全国的なモデルケースになっていると指摘しました。

②では、歴史を知ろうと努力すれば「歴史は知恵の森」となり、知ろうと努めなければ「歴史はいつまでも暗い未知の森」のままであること、また、この歴史を学ぶ姿勢こそが人間の歴史であり、地域の歴史を学び過去の事柄からヒントを得、震災からの復興の一端を担って行くことができるのではないかということを指摘し、それが、まほろんの存在意義でもあることを話されました。

③では、原発事故をギリシャ神話の「パンドラの箱



＜「開館 10 周年記念館長講演会」の様子＞

(災いが詰まった箱)」、になぞらえ、箱の中に残った「希望」が、福島にも東北にも、そして日本にも残されている事を信じ、今後の東北再起動に向けて微力ながら頑張っていく思いを話されました。

今後の館長講演会は、10 月 22 日（土）、12 月 17 日（土）、2 月 18 日（土）の 3 回を予定しております。「歴史は知恵の森」を総合的なタイトルとして、それぞれ副題を、1 回目「一東日本大震災に思う一」、2 回目「一藤本前館長の思い出一」、3 回目「一日本における世界遺産の現状一」とし、当館館長の思いや遺跡保存に関する講演を予定しております。

体験学習

実技講座「古代の染色にちょうせん」

この講座は、古代から伝わる染色を体験するもので、今年は誰でも簡単に染められるタデアイの生葉による染色体験を実施しました。タデアイは日本で古くから藍染めの原料として栽培されてきた植物です。

葉を搾った染液に布を浸し空気に触れさせると、葉に含まれる物質が化学変化で青くなり、さらに日光に当てるときれいに発色します。当日はあいにくの天気でしたが、ときどき雲間から出る太陽に布をかざし、きれいな浅葱色（薄藍色）に染めることができました。

まほろんでは、ベニバナなどの他の染料となる植物も試験的に栽培しており、将来的にはさまざまな染色体験ができるように研究を積み重ねています。



＜染めた布を太陽にかざしている様子＞

実技講座「古代の印章をつくろう」

8 月 28 日（日）、12 名の受講者（大人 10 名・子供 2 名）が古代の印章づくりに挑戦しました。

印章の材料は、木・金属・石・動物の角や牙など様々ですが、今回は加工のしやすい軟らかな石（高麗石）を使用しました。

古代の印章に関する歴史を解説した後、受講者は、まず自分の名前などを基に思い思いのデザインを作り、それを 2cm 四方の高麗石に転写し、専用の小刀を使って彫り込みます。2 時間ほどの緊張の作業を経て、受講者オリジナルの印章が完成しました。

参加した小学生の一人に、できあがった印章を何に使うのか尋ねたところ、「蔵書印」にします。」という答えが返ってきました。素晴らしい！



＜印章を彫り込むのはとても細かい作業！＞

企画展示案内

まほろん収蔵資料展「発掘された浜通りの遺跡
古代～近世の産業」

会期：平成23年10月1日（土）～11月6日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

福島県の浜通り地方は3月11日（金）に発生した東日本大震災に関連して多くの被害を被っています。

まほろんでは、福島県教育委員会が発掘調査を実施した、常磐自動車道や相馬開発事業・真野ダム建設など、この地方の多くの発掘調査の資料を収蔵・保管しています。

今回の企画展示は、前・後期の2期に分け、前期は「原始・古代の村々」、10月1日から始まる後期はこの地方に特徴的な製鉄・窯業・製塩などの「産業」に焦点をあてて、この地方の歴史を紹介します。

「浜通りの製鉄」は、奈良・平安時代の鉄生産関係の資料を展示します。当時の最先端技術である製鉄を営んだ遺跡が新地町（向田A遺跡）・相馬市（山田A・猪倉B遺跡など）・南相馬市（割田H・大船迫A遺跡）から数多く見つかっています。木炭を燃やし、砂鉄を溶かして鉄をとった様子や鉄を溶かして鋳物をつくった様子、生産に従事した下級官人の火葬墓などを紹介します。



＜南相馬市大船迫A遺跡から見つかった製鉄炉跡＞



＜新地町武井E遺跡から見つかった火葬墓＞

「浜通りの窯業」は、日常生活に使用した陶磁器を紹介します。古墳時代の須恵器を生産した相馬市善光寺窯跡や猪倉B遺跡、近世の大堀相馬焼を生産した浪江町中平遺跡の出土品を展示しています。

「浜通りの製塩」は、かつて新地町（師山・双子・今神・山中B遺跡）や相馬市（鷲塚遺跡）にあった旧新沼浦の周辺で、江戸時代の入り浜式塩田跡で使用された木製道具や製塩を営んだ人々が使用した陶磁器などを展示しています。

今回の展示は、被災地域の歴史と特質について紹介し、併せて被災した地域を応援します。



＜相馬市猪倉B遺跡の木炭窯内部から須恵器が見つかった様子＞

まほろんSHOPの人気商品

ショップから新商品のご紹介です。

待望のボールペンが登場！種類はなんと11種！土偶や出土品をモチーフに、人気キャラも出演の全てオリジナルデザイン。1本150円とお手頃です。

菊池館長の著書「考古学の教室」は、考古学に関する素朴な疑問に答える読み易い内容で、中・高校生にもお勧めです。また、まほろんの収蔵品や展示の写真ポストカードも仲間入り。

その他、長らくお待たせしておりました「水晶勾玉」が再入荷！まほろんでは、自分で石を削る「勾玉づくり」が大人気ですが、こちらの完成品勾玉も人気です。新たな種類の石も加わり、古代勾玉も登場。形・色合



＜まほろんSHOPには素敵な商品が勢ぞろい！＞

い豊富になりました！楽しさ倍増の“まほろんショップ”へどうぞお立ち寄り下さい。

文化財研修のご案内

10～12月の研修

平成23年の10～12月の文化財研修は以下の5コースを予定しています。

10月16日(日)は、無形の文化財基礎研修「民俗慣習(祭り)」を実施します。当研修は、無形の民俗文化財の調査・記録・活用等について学びます。今回は祭り行事を中心とした「民俗慣習」を取り上げます。

10月23日(日)は、考古学と関連科学「黒曜石の産地同定」を実施します。黒曜石は、貴重な石器の材料として旧石器時代から流通しますが、黒曜石産地同定の意義と近年注目されている福島県南部に隣接する那須山系の高原山の黒曜石と流通について学びます。

11月27日(日)は、体験学習支援研修I①「土製

品作り(製作)」12月11日(日)は、体験学習支援研修I②「土製品作り(野焼きの方法)」の研修を行います。この2回の研修は、体験学習を文化財啓発や公民館活動、学校教育に応用しようとする方々のための研修です。今回は、土製品の製作から野焼きで完成するまでの一連の作業を学びます。

12月18日(日)は、専門考古学講座Ⅲ「土師器の見方(古墳時代中期)」を行います。当館に収蔵されている古墳時代中期の土師器を観察し、当該期の土器研究方法などについて理解を深める研修です。

以上が10月～12月の文化財研修です。各文化財研修の詳細については、開催日の約一カ月前に、ホームページや館内備え付けのポスター・チラシ等でお知らせしますので、ご覧いただければ幸いです。皆さまの応募をお待ちしています。

シリーズ収蔵品紹介 12

福島市弓手原A遺跡出土の剥片

今回は、福島市弓手原A遺跡から発見された縄文時代の「剥片」について紹介します。

弓手原A遺跡は、福島市の摺上川上流にあり、摺上川ダム建設に伴い県教育委員会が発掘調査しました。この中でも、剥片が出土した土坑(小型の浅い穴)は、縄文時代中期末葉頃(約4,000年前)の遺構群の中にあります。

弓手原A遺跡から出土した剥片は、下の写真のように土坑からまとまって見つかりました。これらの剥片は、全体に丸味を持つように重なりあう様子から、袋のようなものに入れられていたと考えられます。このような出土例は、県内でも数例ほどと思われる。



剥片がまとめて見つかった様子

剥片は、原石から剥がしとった石器を作る材料です。これらの石器の材料には、硅質頁岩と呼ばれる硬質の石が原料とされ、非常に薄くて鋭い刃をもった縦

長の剥片が多く見られます。この中には、右の写真のように同じ形状のものが接合するものも十数点見られ、その状況から規則的



接合した縦長剥片の一例

に同じ方向から剥片をとっていたことが分かりました。また、縦長剥片をとるには、原石に加える力を柔らげるために鹿角や硬木などの軟質な道具が使用されていたと考えられます。このような縦長剥片をとる技術は、旧石器時代から見られますが、弓手原A遺跡の剥片のように縄文時代中期頃まで残る例は、県内でもいくつか散見されます。この時期の縦長剥片の用途については、剥片の大きさや薄さから動物を解体するための万能ナイフである石匙などに加工されたと考えられます。

このようなことから、弓手原A遺跡出土の剥片は、発掘調査時の出土状態や剥片の接合関係から、当時の生活や石器製作技術などの多くの情報を与えてくれる貴重な資料といえます。(主任学芸員 国井秀紀)

まほろんからのお知らせ

11月6日(日)は、まほろん秋まつり!

「まほろん秋まつり」は、復元した縄文時代の石斧で木を切る「木こり体験」、落ち葉でお面やおもちゃをつくる体験等、秋色満載の楽しい体験や、県立図書館「あづま号」等、盛りだくさんで準備しています。ぜひ、遊びに来てくださいね。



ご利用案内

- 開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)
- その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。